

25 真玉橋まだんばしの人柱（八）

侍の時に、何の侍だったかね、これは名前は私は覚えていませんけれど。その方があっちこっち回って船をあれするんでしょう。そうして、ある日、来たところにかわいい娘がいたから、その娘と。結婚してしましたから、その娘と結婚のつもりでなく、遊び、あれであつたんでしょう、子どもさんが出来て。

また、この侍の方の奥様が病氣でありましたから、人の肝を取って、これを薬に飲ませたら治るとのこと。だからそれはどこの、何というサーがあつたかねといつて、占いに行つたわけ。それを調べたところが、この七ムーティなさつたところは、百姓の子どもであつたそうです。その百姓の子どもが女の子でありましたから、そのまた占いが、七つのムーティ。髪に昔は結んでありましたでしょう。そのムーティやつている女の子がその方の肝さ、心臓さ、それを取ってあげたらすぐ治ると言つてきたから、すぐお願いに行つて、

「どうも助けて下さい」つて言つたかな。向こうも仕方なく、新しい子どもでしょう。だから、嫌とも言えないし、まあ向こうは侍方でありますから、仕方なくやつて、あげたとのこと、それをまた、この方は、この真玉橋というところに埋めてみたつて。それを真玉橋七ムーティと。人柱になつてゐるんですよ。人を埋めて橋を架けたんだから。これを人柱といつて、今、呼んでいるそうです。こつちでは、真玉橋七ムーティといつています。

字北波平 当銘キヨ